



評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取り組み状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程 学習指導	対話を通して考えを深める児童を育成する。	児童が対話を通して、自分の考えをもったり、考えを深めたり、新たな課題に気づき解決に向かい意欲的に取り組めるような授業を行う。	学力づくり部	本校では、対話を通して、考えを深めることに課題がある児童が多い。対話を行っても、分かっている児童の発表になってしまっていることが多く、今年度からは児童が対話をしたくなるような授業展開や発表することの良さに気が付けるようなしなやかに行っていく。	【満足度指標】児童が対話を通して、自分の考えをもったり、考えを深めることができたと感じている。	友だちと対話を通して、学びが深まったと感じている児童の割合 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 70%以上80%未満 D: 70%未満	7月と12月に児童にアンケートを実施	B	A	児童アンケートでは、94%の児童が肯定的な回答であった。児童が対話をしたいと思えるようしなやかに教員が取り組んだ成果であると考えられる。今後もより考えを深めたり、広げたりすることができるようしていきたい。
②生徒指導	いじめのない、やさしさあふれる学校づくり努める。	毎月の学校生活アンケートの実施、相談活動などを通して、いじめの未然防止と早期発見・対応に努める。さらに、生徒指導の三機能を生かした指導を、教職員全員が徹底して取り組む。	心づくり部	いじめは小さな身で構むという認識の下、いじめを認知した時は組織的に対応を行い、指導後も複数の教職員で見取りを行っている。自己肯定感を高めることにより、他人に対する思いやりの心も育てていきたい。	【満足度指標】自分には良いところがあると考えている。	自分には良いところがあると答えた児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	B	B	毎月の学校生活アンケートと児童理解の会で、全職員で情報を共有して対応することで児童にとって安心できる環境作りを努めた。児童アンケートでは87%が肯定的な回答であった。自分宣言プロジェクトでは、縦割り班で自分の自慢や良さを共有したことで自己肯定感が高まったと考えられる。今後も児童が目標を設定し、達成した際に認め合う環境づくりをしていきたい。
	主体的にクラス、学校をよくしようとする児童を育成する。	児童が主体となって、目標やルールを設定して、行きたい学校づくりを努める。また、児童会活動や縦割り活動を積極的に行う。		学級目標を日々ふり返り、短期目標を設定して児童の達成感と主体性を育むことができた。今年度は、さらに児童会活動や縦割り活動を活性化することによって、児童の主体性を育てていく。	【満足度指標】毎日の学校生活や児童会活動に、目標をもって、最後まであきらめずに取り組むことができたか。	毎日の学校生活や児童会活動に、目標をもって、最後まであきらめずに取り組むことができた児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	B	B	児童アンケートでは、87%が肯定的な回答であった。児童が現状を踏まえて何ができるのかを考え実行し、児童会活動を活性化させた成果であると考えられる。今後も児童が主体的に活動する機会を持つとともに、最後まであきらめずに取り組めるように職員全体で児童を見とっていく。
③キャリア教育 進路指導	キャリア教育の推進に努める。	学期ごとに自分で目標を設定し、学期末に自己評価する。	学力づくり部	前向きに活動している児童は多いが、自身の姿容や成長を自己評価し実感できていない児童は少ないと思われる。キャリアパスポートを活用し、自己評価を行い、主体的に学びに学びに向かう力を育てる。	【満足度指標】学期ごとに目標を決め、達成に向けて頑張ることができている。	自分で決めた目標の達成に向けて頑張ることができた児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	B	B	児童アンケートより頑張ることができた児童が、89%であった。明確な目標を持ち、自分宣言(アウトプット)することで、自己の現状を自覚することができた。今後も、アウトプットすることで、自主自律を意識を高める。
④保健管理	望ましい生活リズムを身に付け、規則正しい生活習慣の向上を目指す。	ネットモラルやメディアコントロールについて生徒指導と連携し指導の機会を設ける。学校保健委員会の議題としても取り上げる。	体づくり部	実態として、早寝・早起きの習慣が身につけていない児童が増えている。その大きな要因として、メディア使用による寝不足が挙げられると思われる。行動変容につながるような取り組みが必要となる。	【成果指標】メディアコントロールを意識して、早寝・早起きを実践しているか。	実践していると答えた児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	6月と12月に児童にアンケート実施	C	C	6月12月とも77% 6月に比べDの割合が11%から3%に減少したことは、11月に学習会を設けたことで睡眠の大切さを意識できた成果だと考えられる。だが、Aの割合が37%から28%に減少してしまっている現状もある。今後もさまざまな機会を啓発を続けて行動変容につなげていかなければならない。
	体力づくりや体育の授業を通して、運動能力の向上を図る。	体育の学習を通して、運動能力、特に走力の向上を図る。(リズムアップトレーニング・スポチャレいしかわの取り組み)		継続的に体力作りや学年の取り組みは行われているが、走力に課題がある。令和4年度のスポーツテストでは50m走のタイムが学年で県平均を下回っていた。ICT機器の活用、スポチャレいしかわへの積極的参加を通して、走力の向上を目指す必要がある。	【成果指標】50m走のタイムが、1回目(5月)よりも2回目(10月)の方が上回った児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満		5月と10月に50m走の測定実施		D	2回目の記録が向上した割合は66%。継続的に計測することなく、児童の意欲につながらなかったことが一因であると思われる。外部コーチなど積極的に機会を必要があった。リズムアップトレーニングを通して確実に体力はついているため来年度も継続する。
⑤安全管理	火災・不審者・地震・水害を想定した避難訓練を実施し、児童の危機対応力、教職員の危機管理能力を高める。	火災を想定したもの、不審者を想定したもの、地震・水害を想定したものをそれぞれ1回ずつ実施し、関係機関と緊密に連携していく。	教 員 各 担 当	消防署や警察署、こども園と連携をとり、児童の判断力や危機意識をさらに高める。引き渡しカード、危機管理マニュアルやアクションカードの見直しをしていく。	【成果指標】児童自らが判断しなければならない避難訓練を実施し、成果を出している。	火災や地震、不審者などの遭難時に、児童自らが判断し、行動に移すことができた児童の割合が A: 100% B: 90%以上 C: 80%以上 D: 70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施	B	A	休み時間に地震を想定し、避難訓練を行ったが、約95%の児童が、自分で考えて、又は、人の様子を見て行動することができたに答えた。次年度も、自分の命を守るための知識を増やし、冷静な判断ができるように、さらに、周りの人のことも考えて余裕をもった行動ができるような児童の育成を目指していく。
⑥特別支援教育	児童の特性に寄り添った支援の組織的支援体制の確立に努める。	支援を必要とする児童及びその保護者に対して、校内支援委員会や児童の特性に寄り添った支援の在り方を検討し、SCや専門相談員等とも連携し組織的に支援に取り組む。	心づくり部	特別な支援の必要な児童及びその保護者に対して、校内支援委員会や児童の特性に寄り添った支援を検討し、専門機関とも連携して組織的に支援をしていく必要がある。	【努力指標】支援を必要とする児童及びその保護者への支援について、児童の特性に寄り添い、組織的に支援している。	支援が必要な児童及びその保護者に対し、組織的に支援できた児童の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施	A	A	肯定的な回答が100%で、「そう思う」の回答が9/10である。特別な支援を必要としている児童に対して、校内だけでなく専門機関とも連携し、対応を考えたことができた。今後も継続的に児童を見取り、組織的に対応していく。
⑦組織運営 業務改善	組織の横のつながりを活性化し効果的・効率的な業務改善を図る。	学校経営ビジョンの具現化に向けて、分掌部会を充実させるとともに、主任会で話し合い、チームとしての力を高める。	教 務 教 員	職員は協力的であり、組織的・効率的に動く意識が高い。学校運営ビジョンの実現に向けて、各部会ごとの取組について横のつながりを重視し、一致して活動していく必要がある。	【努力指標】学校運営ビジョンの実現に向けて、自己の部会だけでなく、他の部会の取組についても理解し、組織的に学校運営に参画している。	学校運営ビジョンの実現に向けて、3部会の取組を理解し、組織的な取り組みだと答えた教職員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施	B	A	肯定的な回答が9/10あるが、「どちらかというとそう思う」の回答が1/10である。それぞれの部会では、組織的に進んでいるが、他の部会の取組について十分に理解しているとは言えない。取組のねらいや意図について、主任を中心に伝達し、組織的に学校運営に参画していく。
⑧研修	様々な研修に積極的に取り組み、教員としてのスキルアップを図る。	校内研修会や研究授業、授業交流、外部講師の活用など、積極的に行い、授業改善に取り組む。	学力づくり部	研究授業や様々な研修会を実施し、教職員は積極的に取り組んでいる。研修で学んだことを実際の授業や学級経営などに活かすことが必要である。	【努力目標】積極的な姿勢で研修に取り組み、学んだことを実際に活かすことができている。	積極的に研修に取り組み、授業や学級経営、生徒指導など実際に活かすことができた教職員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施	A	A	研修で学んだことを1つでも2つでも取り入れて実践している職員が多い。今後も、やってみたいと思える研修に積極的に取り組み、授業改善を進めていく。
⑨保護者 地域との連携	教育活動の発信に努め、保護者、地域と連携し、開かれた学校づくりをめざす。	学校だより、学年便りや各種便り、ホームページ等で学校や児童の様子を知らせるとともに、地域や保護者と連携した教育活動を推進する。	教 員 各 担 当	各種便りは定期的に発行されている。ホームページで学年の取り組みなどを随時紹介している。コミュニケーションは、今年度からの取り組みになるが、コーディネーターとの連絡を密にしながら、地域との結びつきを高めていきたい。	【満足度指標】学校は、保護者や地域との連携を密に、地域に根ざした児童の育成を進めている。	地域に根ざした児童の育成を進めていると感じている保護者の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	7月と12月に保護者にアンケート実施	B	B	肯定的な回答が、82%であった。3学期に入り、150周年を記念会などで、地域学習の発表などを行い、児童にも地域に対しての愛着が湧いてきたところである。来年度は、OSや保護者の活用をさらに進め、地域に愛着をもつ児童の育成を進めていく。
⑩教育環境 整備	児童が安全で安心して学校生活を送れるよう、教育環境整備に努める。	計画的に校舎内外の整備に努め、学習しやすく動きやすい環境づくりに努める。学期に一度の管理場所の安全点検を通して、不備な箇所の施設の修繕を行う。	総 務 各 担 当	安全点検と早期の修繕を実施しているが、校舎の老朽化に伴い、恒常的に不良箇所が発生している。運動場の改修、エアコンの全室配備などにより、環境の改善が期待される。	【努力目標】教育環境の整備に積極的に取り組んでいる。	教育環境の整備に積極的に取り組んでいる職員の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	7、12月に教職員にアンケート実施	B	A	肯定的な意見が、90%であった。職員室や教室を整備することが、児童の教育にとって大切な要素であることが職員に浸透してきたようである。年度末、特別教室の整理整頓に取り組んでいく。

学校関係者評価

- ・異学年交流が盛んに行われるようになって、地域でも下級生が下級生の面倒を見てくれる様子が見られるようになった。横のつながりばかりでなく、縦のつながりが生まれることで、地域の中での人の結びつきが強くなることを期待する。
- ・子どもが主体的に活動し、工夫し楽しめるようなイベントが学校に増えたように思う。これからは子どもの意見を吸い上げ、企画、運営する取り組みを進めてほしい。企画、参加して良かったという実感をもつことが次の取り組みに繋がると考える。
- ・地震などで災害が生じた場合、地区の避難場所が学校に指定されていることがある。場合によっては、学校の体育館なども利用することがあるので、鍵の存在場所などを明確にしておく必要があるのではないか。市職員との連携が重要になる。
- ・トイレの環境、水道から出ている錆などが気になる子どもが話していた。教育環境は改善しているようだが、学校は市と連絡を取り合って、衛生面や安全面に関してさらなる整備を心がけてほしい。